



第1期「佐久市まち・ひと・しごと 創生総合戦略」に関する効果検証

令和2年7月

佐久市 企画部 企画課

「佐久市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の概要（H31.3改訂）

総合戦略の位置付け

人口ビジョンで描く将来展望を踏まえ、平成27年度から令和元年度までの5か年の目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめたもの

基本的な考え方

- 1 佐久市における人口減少と地域経済の縮小の悪循環を断ち切る
- 2 佐久市におけるまち・ひと・しごと創生と好循環を確立する

施策の企画・立案に当たっての基本方針

- 1 市民の暮らしを守り、研ぎ澄ます身近な施策
- 2 佐久市の特色や地域資源を生かした施策
- 3 地域の強みや特徴を生かした施策
- 4 高速交通網を生かした施策
- 5 地域間の連携を生かした施策

基本目標

佐久市におけるまち・ひと・しごとの創生に向け、佐久市人口ビジョンを踏まえ、以下の4つの基本目標を設定

①安定して働き続けることができる佐久市における「しごと」の創生

【数値目標】

・市内事業所の従業者数
40,203人(H26)
⇒41,100人(R1)

②多くの人に選ばれることができる佐久市における「ひと」の創生

【数値目標】

・人口の社会増
－(H26)
⇒1,000人(R1)

③安心して結婚し、子どもを
生み育てることができる佐
久市における「ひと」の創生

【数値目標】

・合計特殊出生率
1.59(H26)
⇒1.69(R1)

④安心して暮らし続けること
ができる佐久市における
「まち」の創生

【数値目標】

・「佐久市は住みやすい」
と回答する人の割合
75.1%(H26)
⇒80%(R1)

「第1期総合戦略」の効果検証について

1 効果検証の趣旨

まち・ひと・しごと創生法の施行を受け、市では平成27年度に「佐久市まち・ひと・しごと創生総合戦略～若い世代の希望をかなえ 選ばれるまちを目指して～」を策定した。

総合戦略に基づく事業を着実に推進するため、PDCAサイクルを確立することが必要とされていることから、数値目標及び重要業績評価指標（KPI）の進捗状況を客観的に把握及び評価し、今後の施策や事業の改善に活用する。



2 総合戦略の進捗状況

総合戦略の令和元年度施策に係る数値目標及び重要業績評価指標（KPI）の進捗状況は、実績値が目標値と比較してどの程度だったのかを、次のとおり評価している。

達成	概ね達成	未達成	未公表	実績値なし
R1の実績値が目標値以上	R1の実績値が80%以上100%未満	R1の実績値が80%未満	統計調査結果が未公表のため、現時点では実績値が把握できない	・統計調査の実施がなく、今後も実績値が把握できない ・目安値・実績値がともに0の場合

「第1期総合戦略」に掲げられたKPIについて①

- 総合戦略では、次の4つの「基本目標」を設定し、それぞれの進捗について、令和元年度を目標年次として、佐久市として実現すべきアウトカム指標を原則として、重要業績評価指標（KPI）を設定している。
 - ① 安定して働き続けることができる佐久市における「しごと」の創生
 - ② 多くの人に選ばれることができる佐久市における「ひと」の創生
 - ③ 安心して結婚し、子どもを産み育てることができる佐久市における「ひと」の創生
 - ④ 安心して暮らし続けることができる佐久市における「まち」の創生

（1）KPIの概況について

- 基本目標②及び④については、目標値を達成又は概ね達成
- 基本目標①及び③については、現時点では実績値が未公表

（2）「第2期総合戦略」におけるKPIのあり方について

- 「第2期総合戦略」においても、引き続き、設定した基本目標やKPIについて、定期的に検証を行い、議会や外部有識者の意見を踏まえ、必要な見直しを行う。

「第1期総合戦略」に掲げられたKPIについて②

○ 「佐久市まち・ひと・しごと創生総合戦略（H31.3改訂）」に掲げられたKPIは、合計67件（基本目標のKPI：4件、各施策のKPI：63件）。

○これを、以下のとおり評価した。

達成	概ね達成	未達成	未公表	実績値なし
R1の実績値が目標値以上	R1の実績値が80%以上100%未満	R1の実績値が80%未満	統計調査結果が未公表のため、現時点では実績値が把握できない	・統計調査の実施がなく、今後も実績値が把握できない ・目安値・実績値がともに0の場合

4つの基本目標に係る数値目標の達成状況について

No.	指標名	R1 目標値	H26 (基準値)	H27	H28	H29	H30	R1
1	市内事業所の 従業者数	41,100人	40,203人	→ — (実績値なし)	→ 40,327人	→ — (実績値なし)	→ — (実績値なし)	→ — (未公表)
2	人口の社会増 (計画期間の 累計)	1,000人	—	→ 246人	→ 407人	→ 656人	→ 982人	→ 1,147人 (達成)
3	合計特殊出生 率	1.69	1.59	→ 1.52	→ 1.55	→ 1.61	→ 1.59	→ — (未公表)
4	「佐久市は住 みやすい」と回 答する人の割 合	80.0%	75.1%	→ — (実績値なし)	→ 78.7%	→ — (実績値なし)	→ 75.4%	→ 78.0% (概ね達成)

63の重要業績評価指標（KPI）の達成状況について

進捗率	全体				
		基本目標①	基本目標②	基本目標③	基本目標④
達成	27件(43%)	8件(54%)	1件(9%)	11件(55%)	7件(41%)
概ね達成	14件(22%)	3件(20%)	3件(27%)	1件(5%)	7件(41%)
未達成	18件(29%)	1件(6%)	6件(55%)	8件(40%)	3件(18%)
未公表	4件(6%)	3件(20%)	1件(9%)	0件(0%)	0件(0%)
実績値なし	0件(0%)	0件(0%)	0件(0%)	0件(0%)	0件(0%)
合計	63件	15件	11件	20件	17件

※ 主な成果について
総合戦略に記載されている「具体的な取組」は、令和元年度の取組内容と主な成果について記載。

(1) 第1期総合戦略の効果検証（全体）

- 第1期総合戦略では、国の戦略に則して4つの基本目標を掲げ、①「市内事業所の従業員数」、②「人口の社会動態」、③「合計特殊出生率」、④「『佐久市は住みやすい』と回答する人の割合」をそれぞれ数値目標に設定
- 基本目標②及び④については、目標値を達成又は概ね達成
- 基本目標①及び③については、現時点では実績値が未公表
- 人口減少は依然として進行しているものの、国立社会保障・人口問題研究所(社人研)が推計した人口推移に対し、平成27年の国勢調査において、実際の人口が社人研推計を124人上回るなど、人口減少に減速化の兆し
- 「人口減少が地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小が人口減少を加速させる」という悪循環を断ち切り、「市に『しごと』をつくり、『しごと』が『ひと』を呼び、『ひと』が『しごと』を呼び込む」という好循環を確立するという第1期総合戦略の基本的な考え方に対し、悪循環は全て改善していないまでも、その回転スピードは確実に弱まっている

(2) 基本目標①の効果検証

- 基本目標①では、数値目標を「市内事業所の従業者数」と設定
- R1は、2019年度経済センサス基礎調査が令和2年6月1日～3月31日までの期間で実施されており、令和2年7月現在、調査結果が公表されていないため、「未公表」(令和3年10月頃から順次公表予定)
- なお、企業誘致や企業の経営基盤強化、新たな働き方の創設などの取組の効果により、基準値(H26)の40,203人から、H28は40,327人となり、概ね順調に推移
- 中間の傾向からは、従業者数は増加方向にあることから、これまでの企業誘致や経営基盤の強化に加え、新たな働き方の創設などにより、目標値の達成に向けて多角的な取組を進めていくことが重要
- 基本目標①の各KPIも以下1項目を除き、各種施策の推進により目標値を達成又は概ね達成

※ 未達成のKPI「資格取得支援事業による資格取得件数」

(3) 基本目標②の効果検証

- 基本目標②では、数値目標を「人口の社会増」と設定
- R1は、計画期間の累計で1,147人の社会増となり、目標値を達成
- しかしながら、基本目標②の各KPIの達成率が悪く、未達成は55%
- 未達成の要因として、総合戦略期間の各効果検証時点において、目標値の再設定を行わなかった、現状把握・分析の甘さから施策の軌道修正を行わなかった等が挙げられる

(4) 基本目標③の効果検証

- 基本目標③では、数値目標を「合計特殊出生率」と設定
- R1は、R2年10月頃に把握が可能となる予定で、実績値を把握することができず、「未公表」
- 前年度までの推移は、基準値となる平成26年から概ね横ばいの状況であり、自然動態が、本市における人口減少の要因となっていることから、改善に向けて特長ある取組を進めていく必要
- 基本目標③の各KPIは、達成が11件(55%)・未達成が8件(40%)となり、達成・未達成の施策に乖離

(5) 基本目標④の効果検証

- 基本目標④では、数値目標を「『佐久市は住みやすい』と回答する人の割合」と設定
- R1は、78.0%となり目標値を概ね達成
- 市の卓越性として、高速交通網の充実や医療福祉の充実、健康長寿などに代表される「暮らしやすさ」が挙げられ、この卓越性を具現化する施策に関しては満足度が高くなっている一方、その他の施策については、半数以上の市民が満足していない状況
- 基本目標④の各KPIも以下3項目を除き、各種施策の推進により目標値を達成又は概ね達成

※ 未達成のKPI

- ・ 「地域交通ネットワーク」についての満足度
- ・ 「高齢者福祉・介護保険」についての満足度
- ・ 空き家バンク登録物件の契約成立件数(再掲(基本目標②))

(6) 第2期総合戦略に向けた取組方針

- 市では、第1期総合戦略に基づく事業を今後も着実に推進し、切れ目ない取組を進めるため、令和2年度から令和6年度までの5年間、佐久市の更なる地方創生の充実・強化に向け、「第2期佐久市まち・ひと・しごと創生創生総合戦略」を策定
- 地方創生は息の長い政策であり、中長期的に創生を実現していくものであるから、未来の姿やそこまでの行程についてビジョンを持つことが重要
- その上で、第1期の「黎明期」で根付いてきた地方創生の意識や萌芽してきた成果を次のステージに繋げ、第2期の「成長期」において確実化・加速化させるため、「成長期」に行うべき施策に特化・鋭角化した対策を打つことで、悪循環を好循環に確実に反転させるための強力なエンジンとしていくことを基本的な考え方とする
- 第1期総合戦略で設定した基本目標及びその数値目標は維持しつつ、具体的な施策を企画・立案する際の基本的方針として、立脚すべき考え方と、時代の流れを踏まえて横断的に適用すべき手法を設定

【立脚すべき考え方】

- ・ 卓越性を磨き、生かす施策展開
- ・ 地域ごとの特徴を磨き上げ、個性化する施策展開
- ・ 市民が誇りを持てる施策展開
- ・ 若い世代の人の流れを具体化する施策展開
- ・ 長期ビジョンを明確化した施策展開
- ・ 人口減少を意識した施策展開

【横断的に適用すべき手法】

- ・ ターゲットの明確化とそこまで届く情報発信
- ・ 未来技術の活用
- ・ 国外の活力の活用
- ・ 民間の発想・資金・人材・技術のフル活用